

『菅家後集』所載「梅花」作品考

495 梅花

本文

平仄

宣風坊北新栽處

○ ○ ○ ○ ● ○ ○ ○ ●

仁壽殿西内宴時

● ● ● ● ○ ● ● ● ○

人是同人梅異樹

○ ● ○ ○ ○ ○ ● ● ● ●

知花獨笑我多悲

○ ○ ● ● ● ● ○ ○ ○ ○

※脚韻は上平声支韻、韻字は「時」「悲」である。

訓読

・宣風坊の北 新に栽うる處

・仁壽殿の西 内宴の時

・人は是れ同人 梅は異なる樹

・知りぬ 花のみ独り笑みて、我は悲しみ多きを

通釈

・(私は以前)自宅のある京都の宣風坊の北の地に、新たに一株の梅を植えそれを愛でていた(のが、この時期だっ